

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：35414  
研究種目：基盤研究(C) (一般)  
研究期間：2017～2022  
課題番号：17K12514  
研究課題名(和文) 新人訪問看護師が「ひとりで訪問できる」ために必要な看護実践能力の評価指標の作成

研究課題名(英文) Development of an evaluation index of the nursing practical competencies required by new visiting nurses for home care visits without assistance

研究代表者  
松原 みゆき (Matsubara, Miyuki)  
日本赤十字広島看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：20412356  
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、新人訪問看護師がひとりで訪問できる(単独訪問)ために必要な看護実践能力の評価指標の作成することである。本指標は、「必ず習得すべき能力」15項目、「必要だが徐々に習得すればよい能力」6項目で構成された。必要な看護実践能力は、訪問看護ステーションに在籍する認定看護師を対象に、デルファイ法を用いてコンセンサスを得た。新人訪問看護師が、単独訪問をするにあたっての看護実践能力の習得状況を評価する指標することで、新人訪問看護師と教育担当者が習得状況を共通認識でき、必要な看護実践能力の習得に向けた支援に活用できる。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

訪問看護師は、原則一人で訪問するため、入職早期から訪問看護に必要な看護実践能力を習得することが、質の高いサービスの提供につながる。単独訪問の開始にあたって、本評価指標を新人訪問看護師と教育担当者が共通認識できるツールとして活用することで、新人期から必要な看護実践能力の習得を促進することができる。引いては、訪問看護師の質の向上及び定着につながると考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop an index to evaluate the nursing practical competencies required by new visiting nurses to be able to visit alone. This index consists of 15 "must-learn" competencies and 6 "necessary but should be acquired gradually" competencies. The necessary nursing practical competencies were agreed upon using the Delphi method with certified nurses enrolled in home visiting nursing stations. This is used as an indicator to evaluate the acquisition of nursing practice skills by new home health care nurses as they make solo visits. New visiting nurses and nurse educators will be able to share a common understanding of their learning status, and the results can be used to support the acquisition of necessary nursing practice practical competencies.

研究分野：在宅看護

キーワード：新人訪問看護師 単独訪問 看護実践能力 評価指標

## 1. 研究開始当初の背景

近年、国が在宅医療を推進している中、医療的なケアが必要な方や人生の最期を家で迎えたい方などへ様々な対応ができる訪問看護師への期待は高い。しかし、訪問看護師の確保と定着の課題を抱えており、新人訪問看護師の教育はその対策として重要視されている(日本看護協会編,2017)。

訪問看護に初めて従事する新人訪問看護師の多くは、臨床経験を持っている。しかし、訪問看護のように療養者の生活の場に入り、家族も含めて健康状態や環境を包括的に捉え看護を実践することは未経験である。新人訪問看護師は、訪問看護と施設看護とで求められる看護実践能力の差異に戸惑いがある(森, 大山, 廣岡, 深堀, 2016)。

新人訪問看護師が訪問看護に必要な看護実践能力を習得していく方法として、同行訪問や技術指導が有効であると考えられている。原則一人で訪問しケアを提供する訪問看護の特性から、新人訪問看護師は、このような On-the-Job Training (OJT) を通して、「ひとりで訪問できる」ための看護実践能力を習得していく。しかし、新人訪問看護師は先輩訪問看護師から離れてひとりで訪問する時期が早く、一人で訪問することに不安を感じている(小森, 二重作, 2011)。また、訪問看護ステーション管理者は、時間的な余裕のなさなどを理由に職員教育の難しさを感じており(松原, 2014)、新人訪問看護師を同行訪問から「ひとりで訪問できる」判断の基準は、事業所の事情や人員、管理者や先輩訪問看護師の持つ経験や評価尺度によって大きく相違があると考えられる。新人訪問看護師の入職早期のひとり立ちは技術的・精神的負担を強いられ、自信の喪失やひいては離職へつながる可能性がある。

そこで、新人訪問看護師の不安や負担を軽減し、質の向上を目指すために、どのような看護実践能力を習得すれば「ひとりで訪問できる」のか、新人訪問看護師と管理者・先輩看護師などの教育担当者の双方が共通認識できる評価指標が必要と考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、新人訪問看護師が「ひとりで訪問できる」ために必要な看護実践能力の評価指標の作成をすることである。

## 3. 研究の方法

1) 新人訪問看護師が単独訪問できる実践能力習得に向けた教育担当者の関わりについてインタビュー調査

新人教育プログラムのある訪問看護ステーションでの勤務が3年以上の教育担当者6名に対し、新人訪問看護師が単独訪問に向け習得を支援している実践能力と指導方法について、半構造化面接を実施した。分析は類似したコードをまとめ、カテゴリー化した。

2) 新人訪問看護師が「ひとりで訪問できる」ために必要な看護実践能力の評価指標原案の作成

先行研究及び1)の結果から、新人訪問看護師が「ひとりで訪問できる」ために必要な看護実践能力を抽出し、評価指標原案の作成をした。

3) デルファイ法による評価指標の項目の検討

訪問看護及び在宅ケア認定看護師(以下、認定看護師)の合意から、新人訪問看護師が「ひとりで訪問できる」ために必要な看護実践能力を洗練化することを目的として、デルファイ法を用いた調査を行った。対象は、訪問看護ステーション(訪問看護関連施設も含む)に在籍している認定看護師で、研究協力の同意が得られた者とした。評価指標原案の看護実践能力ごとに、必要度を「必ず必要な能力である」「必要だが徐々に習得すればよい能力である」「優先度の高い能力ではない」「必要な能力ではない」の4択で回答してもらった。コンセンサスを示す同意率は70%以上とした。

## 4. 研究成果

1) 新人訪問看護師が単独訪問できる実践能力習得に向けた教育担当者の関わりからみえてきた必要な看護実践能力

6名の教育担当者へのインタビューの結果、教育担当者は、新人訪問看護師が一人で訪問できるように訪問看護師としての基本的な態度 利用者・家族との良好な関係づくり 利用者の個別性を重視した関わり 利用者にとって最も安楽なケア方法 利用者の状態の見極める 利用者・家族にケアの根拠の説明 今後の訪問までに予測される事象のアセスメントと対応 他職種へのこまめな連絡 といった看護実践能力の習得が必要と考え、支援していることが明らかになった。

また、これらの習得のために、教育担当者は、訪問前に、利用者・家族の性格や家屋環境など利用者別の配慮を伝えていた。そして、情報収集状況を確認 や 情報の判断状況を確認をし、訪問時の観察・ケアを確認 していた。訪問中は、利用者別の援助方法を 伝えながら

見せる ことから始め、一緒に実践する ことでできていないところをサポートしていた。そして、徐々に 一人での実践を見守る ようにし、最終的に他の利用者の訪問など 一人での実践経験の機会を増やす ことで習得状況を確認し、単独訪問を自律させていた。訪問後は、新人訪問看護師に 気づかせる問いをする ことをし、気づいたことを助言する 分からないことを助言する ことで フィードバックを繰り返す といった関わりを繰り返していた。

## 2) 新人訪問看護師が「ひとりで訪問できる」ために必要な看護実践能力の評価指標の作成

先行研究と教育担当者のインタビューをもとに、研究者らでブレインストーミングを重ね、新人訪問看護師がひとりで訪問できるために必要と考えられる看護実践能力 37 項目を抽出し、評価指標の素案を作成した。

この項目をもとに、訪問看護ステーション(訪問看護関連施設も含む)に在籍している認定看護師で、研究協力の同意が得られた者に対し、デルファイ法を用いた 2 回の調査を行った。訪問看護ステーション 334 施設のうち 60 施設の認定看護師 61 名から同意が得られた。第 1 回目調査は、61 名(100.0%)から回答があった。第 1 回目の結果をもとに、表現の変更及び 3 項目の追加をした。40 項目について第 2 回目調査を実施し、43 名(71.7%)から回答を得た。その結果、コンセンサスを得たのは、21 項目であった。単独訪問するまでに必ず必要な能力として、「就業上のルールを守る」「日頃の健康管理に努める」「訪問看護制度の仕組み、利用者負担を理解する」「地域の保健福祉サービスを理解する」「利用者・家族に礼儀正しい態度や言葉づかいで対応する」「利用者宅の物品を丁寧に扱う」「バイタルサインの測定をする」「利用者の安全を念頭に看護援助を行う」「同僚・管理者に利用者に行った看護援助の報告・連絡・相談をする」「同僚・管理者に一人で判断が困難な利用者・家族の問題の相談をする」「利用者がいつもの状態と違うと気づいたことを他者に相談できる」「利用者・家族の不満や苦情が生じた場合、管理者に速やかに報告する」「プライバシーを保護して情報や記録物を適切に取り扱う」「交通ルールを遵守する」「交通事情に留意しながら、訪問先まで安全に移動する」の 15 項目、徐々に習得すればよい能力として「必要な情報をもとに訪問時に行う看護援助が判断できる」「利用者にとって安楽な看護援助の方法を考える」「在宅医療にかかわる管理を行う」「利用者の病態から予測される問題に対し予防的に対処する」「主治医に必要な情報を提供し相談をする」「ケアマネジャー等関係職種と情報交換できる」などの 6 項目であった。

以上の結果をもとに、新人訪問看護師が「ひとりで訪問できる」ために必要な看護実践能力評価指標を作成した。本指標は、「必ず習得すべき能力」15 項目、「必要だが徐々に習得すればよい能力」6 項目で構成した。新人訪問看護師と支援者が習得度をチェックする欄を設け、双方が同じ様式を使用し評価できるようにした。また、コメント欄を設け、評価日の気づきや今後の課題を記載できるようにした。

## 3) まとめ

デルファイ法から明らかになった新人訪問看護師がひとりで訪問できるために必要な看護実践能力は、訪問看護制度を理解し、利用者・家族に礼儀正しく接し、利用者の安全を考慮した看護援助を実践できる基本的な看護実践能力であった。また、管理者・同僚への報告・相談に関することも必要であった。新人期であっても、ステーション内外のスタッフとチームで協働しながら、利用者へ適切なケアを安全に実施する姿勢を持つことを求められていることがわかる。

単独訪問に向けた看護実践能力が可視化された評価指標を活用することで、新人訪問看護師と教育担当者の双方が共通認識でき、必要に応じて習得に向けた方策を双方で一緒に検討できる。そのため、新人訪問看護師の単独訪問への自信につながり、教育担当者も段階的に向上するための支援ができると考える。また、支援の際には、経験に対し自ら気づき考え省察する成人学習理論を活用した関わりをしており、臨機応変な対応を求められる訪問看護の新人教育には特に効果があるといえる。

## 文献

小森直美, 二重作清子(2011). 訪問看護ステーションにおける新入職者のための育成支援に関する研究. 木村看護教育振興財団看護研究集録, 18, 31-38.

松原みゆき(2014). 訪問看護ステーション管理者のやりがいと困難を構成する要素. 日本赤十字広島看護大学紀要, 14, 37-46.

森陽子, 大山裕美子, 廣岡佳代, 深堀浩樹(2016). 新たに訪問看護分野に就労した看護師が訪問看護への移行期に経験した困難とその関連要因. 日本看護管理学会誌, 20(2), 104-114.

104

日本看護協会(編)(2017). 平成 29 年度版看護白書. 日本看護協会出版会.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松原みゆき, 眞崎直子, 榮田絹代, 池田由宇子
2. 発表標題 新人看護師が単独訪問できる実践能力習得に向けた教育担当者の関わり
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松原みゆき, 眞崎直子, 長尾美香, 中上美重子, 古賀聖典, 榮田絹代
2. 発表標題 新人訪問看護師がひとりで訪問するためにできる必要がある実践能力の検討
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松原みゆき, 眞崎直子
2. 発表標題 デルファイ法による新人訪問看護師が単独訪問するために必要な看護実践能力評価指標の作成
3. 学会等名 第27回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	眞崎 直子  (Masaki Naoko)  (40548369)	聖マリア学院大学・看護学部・教授    (37125)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------